

## 仙台市における子連れでの市民農園利用の実態分析 ～若年層利用拡大への提言～

澈力格尔（環境経済学分野）

### 【目的】

研究目的は、都市部における市民農園利用実態について「子連れ利用者」に着目し、整理する。そして、「子連れ利用者」が利用しやすい市民農園の特徴を分析して、結果を踏まえて若年層の利用拡大に向けた提言を行う。

### 【方法】

本研究では電話調査、現地調査とインタビュー調査、ヒアリング調査の4種類の調査を行う。電話調査の実施対象者は仙台市内の市民農園（「仙台市内のレクリエーション農園一覧」に掲載されている市民農園）の各市民農園主となる。

各農園主に電話して、子連れ利用者の有無を確認した。確認した結果から、子連れ利用者がある農園に対し、現地調査及びインタビュー調査を行った。

そして、直接市民農園を訪問し、各市民農園について観察項目に従い観察、利用者実態などを聞き取った。

### 【分析結果】

回帰分析の結果から子どもの人数と評価指標に有意な相関が認められ、子連れ利用者の増加には各要素が重要であることが明らかになった。特に4要素の中では、「指導員と質問できる人」、「フリースペース」、「イベント」との関係が強いと分かった。

### 【結論】

都市部における市民農園の若年層の利用拡大には、「人による支援（イベントを含む）」と「モノや場所による支援」の両方が必要不可欠である。

「人による支援」として、若年利用者の拡大のために指導員等の農業従事者、あるいはベテラン利用者が欠かせない。彼らが市民農園に存在することで、若い農業未経験の利用者をサポートすることができる。それにより、収穫できないために辞めてしまうという若年利用者の負のサイクルを止めることができる。

また市民農園では、魅力あるイベントをつくり、情報発信を積極的に行うことが望まれる。イベントがあることにより、利用者たちが集まり、農園主と利用者の交流、農園主同士の交流、利用者同士の交流など、様々な人同士の交流が活性化し、若年利用者にとって分からないことや、困ったことについて相談しやすい環境が構築されるからである。

「モノや場所による支援」として、市民農園は「フリースペース」と「附帯施設」を積極的に設置すべきである。市民農園の利用者や子どもたちが農作業に疲れた時、気持ちを転換することができ、なれない農作業で戸惑った際に活躍することが期待されるからである。

最後になるが、今後の市民農園における若年利用者拡大のためには「附帯施設」や「フリースペース」によるハード面での支援と、人による支援であるソフト面での支援の両面で行っていくことが望まれる。